

内視鏡部

1 スタッフ

部長（教授） 宮谷 博幸
 看護師長 名古屋智代

消化器内科・呼吸器内科・呼吸器外科の
 医師が兼任で内視鏡検査・治療を行っている。

消化器内視鏡については、各曜日で責任
 者を定めており、消化器内科スタッフが検
 査・治療を行っている。

気管支内視鏡検査は水曜日午前に呼吸器
 内科、金曜日午後に呼吸器外科がそれぞれ
 検査にあたっている。

看護師は師長、主任以外に9名（常勤8
 名、パート1名）、放射線技師1名、洗浄
 員3名、看護補助員1名、受付2～3名で
 診療にあたっている。

2 診療科の特徴

最新の設備と優秀な人材を擁し、地域の
 中核病院として高度な内視鏡医療を提供し
 ている。また教育施設として近隣および他
 県の医療機関から多くの研修生を受け入
 れてきた。さいたま医療センター設立の大
 きな目的の一つが総合医の育成であり、内
 視鏡部、消化器内科においても医局員は各
 々の専門分野を持つと同時に、助教以下
 のスタッフ全員が上部、下部の通常内視鏡
 検査に加えて、内視鏡治療、ERCP、小
 腸内視鏡、カプセル内視鏡等も一通りこ
 なせるように育成していくことを目標と
 している。また希望があれば消化器内科・
 外科以外の他科からも積極的に研修を受
 け入れている。当センターの特徴として
 消化管出血、

閉塞性黄疸など緊急内視鏡検査・処置の
 必要な症例が非常に多く、内視鏡部では
 指導医と若手医師をペアとする緊急内視
 鏡当番を決めて、24時間対応できる体制
 を取っている。

3 実績・クリニカルインディケーター （2023年1月～12月）

①上部内視鏡総件数	4340件
静脈瘤治療（EIS 33件、EVL 25件）	58件
上部ESD（食道53件、胃・十二指腸189：うち十二指腸12）	242件
胃十二指腸ポリープEMR（胃3件、十二指腸10件）	13件
食道・胃内異物除去	19件
食道狭窄拡張術	58件
胃十二指腸拡張術	3件
内視鏡的胃十二指腸ステント留置術	10件
食道ステント留置術	4件
上部超音波内視鏡（専用機792件、EUS-FNA138件、瘻孔形成術22件）	880件
内視鏡的胃瘻造設術	37件
内視鏡的イレウス管留置術	53件
緊急止血術（上部）	190例
②小腸検査	
小腸内視鏡（上部54件、下部45件）	99件
カプセル内視鏡（SB-3 84件 パテンシー0件）	84件
③大腸内視鏡総件数	3103件
EMR, ポリペクトミー（2cm未満950件、2cm以上49件）	999件
大腸ESD	125件

小腸結腸止血術	75件
下部消化管ステント	10件
小腸・結腸拡張術	20件
内視鏡的結腸軸捻転解除術	15件
④ERCP 総数	530件
EST	79件
(碎石を伴うもの19件)	
胆道拡張術	5件
胆道結石除去術(含碎石)	189件
胆管ステント留置術	274件
ENBD	105件
膵管ステント留置術	44件
⑤気管支鏡 総数	376件
TBLB	250件
気管・気管支ステント留置術	15件
EBUS-TBNA	19件

4 カンファレンス

毎週火曜日午後5時半より内視鏡検査に携わっている消化器内科医師と消化器外科および耳鼻咽喉・頭頸部外科の代表医師が参加し、内視鏡室カンファレンスルームにて、前週の施行症例を中心にカンファレンスを行い、症例に応じて治療方針の検討を行っている。

内視鏡部の看護師を含めたスタッフミーティングを適宜行い、内視鏡部における様々な問題についての反省および改善点を検討している。

5 今後の活動目標

①難易度の高い治療内視鏡の件数の増加が著しいが、安全で確実な内視鏡検査・治療を行うことを第1目標としている。

②治療内視鏡

胃・食道・大腸ESDなどの治療内視鏡

件数が増加している。地域の基幹病院として高度な内視鏡検査・治療が求められており、そのための人材を育成していく必要がある。今後もより症例数を増やし、内視鏡に関わる様々な方面で高い技術と知識を持った内視鏡医を多数育成することは大きな目標の一つである。また内視鏡関連の内容を学会・論文等で積極的に報告する。

③超音波内視鏡・小腸バルーン内視鏡検査の充実

当施設は県下でも超音波内視鏡・小腸内視鏡検査・カプセル内視鏡検査の件数が非常に多いのが特徴である。今後も、超音波内視鏡・小腸バルーン内視鏡・カプセル内視鏡を用いた診断・治療をますます充実させたい。

6 目標の達成度

2023年は前年と比較し、治療内視鏡の件数が増加し、それによる収益増が得られた。

(2023年度 収益額 計238,516,000円、2022年度 収益額 計218,143,000円、2021年度 計192,747,000円)

高度な技術を必要とする治療内視鏡件数も増加傾向であった。指導医数は増加していないが、2023年もほぼ前年と同レベル以上の内視鏡診療が維持できている。技術や知識の伝承がうまく行われてきており、若手の医師の成長スピードが早く、ESDをはじめとした高度な治療内視鏡がより確実により安全に施行できるようになっている。

内視鏡実績2023年（2022年）

診断内視鏡		治療内視鏡	
上部消化管内視鏡	4,340（3,978）件	ESD 胃	177（171）件
下部消化管内視鏡	3,103（2,895）件	食道	53（53）件
ERCP	530（477）件	大腸	125（143）件
超音波内視鏡	880（803）件	食道静脈瘤治療	58（52）件
（EUS-FNA）	138（118）件	消化管拡張術	81（24）件
小腸内視鏡（DBE）	99（73）件	胃瘻造設術（PEG）	37（39）件
カプセル内視鏡	84（79）件	乳頭切開術（EST）	79（69）件

大腸EMR, ポリペクトミー 999件（864件↑：2022年、730件：2021年）